

## BMS 研究会幹事会議事録

日時: 2002年6月21日

場所: 名古屋市立大学薬学部薬友会館

参加者: 会長 中嶋 圓  
庶務幹事 加藤雅之  
会計 金氏由樹子  
幹事 坂田 武, 羽倉昌志, 松村茂夫  
ホームページの世話人 須井 哉  
共同研究世話人 石原啓美, 中村真人, 羽倉昌志

- 議題:
1. 共同研究の進捗状況, 今後の方針
  2. 第29回定例会, 第30回定例会の世話人の選定
  3. BMS研究会のホームページについての提案
  4. 新しい共同研究

### 1. 共同研究の進捗状況, 今後の方針

現在進行している共同研究の進捗状況及び今後の方針について世話人から報告があった。

- ・ ヒトS9を用いる Ames 試験に関する共同研究(世話人: 羽倉昌志)  
第1回共同研究(2000年10月~2001年3月実施)の結果を第27回BMS研究会(2001年6月)で中間発表, 第8回ICEM(2001年10月)で発表した。現在第2回共同研究(2002年1月~)のデータ収集を終えた段階で, 第2回共同研究の結果を第28回BMS研究会(2002年6月)で中間発表, 環境変異原学会第31回大会(2002年11月)で発表する予定。
- ・ 大腸菌 WP3101P~3106P を用いた突然変異スペクトルの解析に関する共同研究(世話人: 石原啓美)  
共同研究は1999年より3年間ほど実施した。すでにBMS研究会, 環境変異原学会及びICEMで随時発表しており, 現在これまでの結果を環境変異原研究に投稿するため準備中。この投稿をもって共同研究を終了したい。
- ・ ニトロアレーソ, 芳香族アミン等の各種化合物に高感受性を示す株を用いた共同研究(中村真人)  
これまでの共同研究の結果はすでにBMS研究会, 環境変異原学会で発表した。現在新たに化合物を選定し共同研究を継続する予定。またこれまでの参加機関に対し継続の意思をアンケートし, 継続の意思表示のあった機関を確認した(21機関中10機関が継続の意思)。

### <幹事会での検討, 合意事項>

- ・ 大腸菌 WP3101P~3106P を用いた突然変異スペクトルの解析に関する共同研究  
世話人からの提案に対し, 共同研究の終了について指導をいただいた東京薬科大学 太田先生及び共同研究の参加機関の了解が得られていること, 共同研究の成果が得られている(最終的に学会誌に投稿)ことから, 終了を了解した。

- ・ ニトロアレーン、芳香族アミン等の各種化合物に高感受性を示す株を用いた共同研究  
中嶋会長から「秋に開催される環境変異原学会第 31 回大会に併せて行なわれる評議委員会に各研究会の代表が出席し、活動報告を行なわなければならない」との発言があり、10 月を目途に活動報告ができるように共同研究を進めてもらうことを各世話人に要請した。
- ・ その他  
中嶋会長から「共同研究の世話人は 2 年程度を目安に引き受けてもらい、共同研究は投稿などの成果が得られた上で終了とする」との提案があり、今後はこのように行なうことを確認した。

## 2. 第 29 回定例会、第 30 回定例会の世話人の選定

今秋の環境変異原学会第 31 回大会に併せて行なう予定の第 29 回定例会(東京)、来春に行なう予定の第 30 回定例会の世話人を選定した。選定は幹事の持ち回りとし、また過去の定例会世話人(25 回: 中嶋),(26 回: 加藤、榎本、石原),(27 回: 関、島田),(28 回: 羽倉)を考慮した。

### ・ 第 29 回定例会

第 29 回定例会は環境変異原学会第 31 回大会に併せて行なうこと、環境変異原学会第 31 回大会の実行委員を加藤が務めており、実行委員会に出席した経緯から加藤幹事を世話人に選定した。

### ・ 第 30 回定例会

東京以外の地域での定例会開催が望ましいとし、第 30 回定例会は関西で行なうこととし松村幹事を世話人に選定した

- ・ 中嶋会長から「来秋に開催される環境変異原学会第 32 回大会(三重県、津)では講演、シンポジウムと示説の会場が分かれることになるが、定例会はどうするのか、研究会はどのように対応すれば良いのか」との発言があった。現段階で対応についての意見がなかったことから、次期会長を含めて幹事会で検討して行くことを合意した。

## 3. BMS 研究会のホームページについての提案

ホームページの世話人(須井 哉)からホームページの状況説明があり、続いてホームページの運営方法に関して下記の提案があった。

- 1) ホームページに掲載するものを考え、集めること、また掲載するべきかどうかの判断を現在の世話人 1 名で行なうのは責任が重過ぎる。ホームページの委員会を設け、掲載内容を検討する委員を 2 名以上、ホームページの更新、ファイル管理などのメンテナンスを担当する委員を 1 名選定、任期を設定してはどうか。
- 2) 掲載内容として「幹事会の議事録」、「幹事間の連絡文書」、「定例会の内容: プログラム、教育講演の要旨など」を考えてはどうか。
- 3) ホームページにパスワードで管理する会員専用のページを設定し、研究会のデータ、書き込み自由の掲示板を掲載したらどうか。掲示板を掲載する場合はプロバイダを変更する必要がある。

### < 幹事会での検討、合意事項 >

世話人からの提案に対し、「ホームページに関する作業は業務外に行なうことになり、現在の世

世話人 1 名では負担が大きい」,「ホームページに関する作業はある程度の知識を必要とするのではないか」,「実務としてはそれほど難しくはない」,「ホームページは BMS 研究会の会報として考え、定例会の開催の都度講演内容の要旨, 研究会で発表した共同研究のデータなどを掲載してはどうか. 定期的にホームページを更新する必要はないと思う」,「掲載する原稿は定例会の世話人など他の者に依頼したらどうか, 送られたものを掲載するようになれば世話人 1 名のままで良いのではないか」などの意見が出され, 今後のホームページは下記のように行なうことを合意した. またあらためてホームページの世話人に継続して管理してもらえよう依頼し, 了解を得た.

- 1) パスワードでの会員, 非会員の管理は難しい. 従ってパスワードについては今後のホームページへのアクセス数の増減を見た上で考える.
- 2) ホームページの定期的な更新はしない. 定例会の世話人は定例会の内容を原稿にしホームページの世話人に提出することとし, 公開講座などの情報も幹事, 会員からホームページの世話人に積極的に連絡するようにする. またホームページの世話人からも幹事, 会員に対しどんどん要求してもらおう.
- 3) 掲載するべきかどうかの判断が必要な場合は, 幹事に回覧して幹事の過半数の合意をもって掲載する.
- 4) 幹事会の議事録については原則として公開とする. ただし議事録は掲載する前に幹事に回覧し, 合意を得ることとする.

#### 4. 新しい共同研究

中嶋会長より「新しい共同研究の提案をお願いしたい」との発言があり, 研究会の将来像を含めた意見の交換を行なった. 「Ames 試験のスマール化」, 「構造活性相関のためのデータベース」新たに Ames 試験に従事することになった会員のための Q&A」などの意見が出されたが, 具体的なテーマを決めることはできなかった. また中嶋会長から「Ames 試験に限定すると共同研究のテーマは考えにくい. また BMS 研究会だけではなく他の研究会, 環境変異原学会の会員も減少する傾向があり, 今後 BMS 研究会は Ames 試験に限定するのではなく他の分野も視野に入れた共同研究のテーマを考えることが必要」との発言があり, 今後研究会として検討して行くことを合意した.

文責 加藤 雅之